

# 岩手山火山防災協議会の 対応状況

(岩手山 噴火警戒レベル2への引き上げに伴う対応)

岩手県 復興防災部 防災課  
(岩手山火山防災協議会事務局)

# 岩手山

An aerial photograph of Mount Iwate, a layered volcano. The mountain's peak is covered in a layer of snow, contrasting with the dark, rocky slopes. The surrounding landscape consists of rolling hills and valleys, some of which are also covered in snow. The sky is a clear, pale blue.

標高2,038m

日本百名山に数えられる岩手県の最高峰  
西岩手・東岩手の2つの成層火山から成る

# 岩手山 過去の噴火

1686（貞享3）年 3月～12月

【場所】 東岩手山妙高岳

【現象】 中規模：マグマ水蒸気噴火、マグマ噴火

1732（享保16～17）年 1月22日～31日

【場所】 東岩手山北東山腹

【現象】 中規模：マグマ噴火

1919（対象8）年 7月15日

【場所】 西岩手山大地獄谷

【現象】 小規模：水蒸気噴火

※ 堆積物等の調査から、過去約7,000年の間に9回の水蒸気噴火が発生したことがわかっている。

# 1998（平成10）年 岩手山噴火危機

- 1997年12月末から山体西側浅部で地震活動が始まり、1998年2月頃から超長周期地震を含む地震活動が活発化。同時に、東北大学、国土 地理院等の地殻変動観測データにも変化が現れる。
- 1998年4月29日に短時間で多数の火山性地震を観測、傾斜計に大きな変化。
- 活動は6～7月をピークに、8月以降徐々に低下。9月3日岩手山の南西約10kmでM6.2の地震が発生し、直後に地震活動が一時活発化したが、10月には元の傾向に戻った。1999年以降、浅部の地震活動はさらに低下したが、やや深部の低周波地震・微動の活動は継続。
- 岩手山西側では噴気活動が1999年6月頃から活発化、2002年から2003年をピークに徐々に平常に戻った。噴火には至らなかった。



# 1998（平成10）年 岩手山噴火危機

## 岩手県の火山活動に関する検討会発足

- ・ 岩手県内に所在する常時観測火山の活動状況を適時、適切に把握するとともに、火山の活動状況に関し有識者等の助言を得るため設置。
- ・ 例年2回開催。令和6年10月末日時点で延べ73回開催。

## 火山災害を想定した防災訓練実施

- ・ 岩手山周辺市町村と連携、平成10～15年までの間に9回の防災訓練を実施。
- ・ H26年度、R5年度に、岩手山の火山災害を想定災害として県総合防災訓練実施。

# 1998（平成10）年 岩手山噴火危機

## 岩手山火山防災マップ作製

火山災害要因（火砕流、土石流、降灰・噴石等）ごとにその影響が及ぶ範囲とともに、避難場所等を示したものの。



岩手山東側、西側火口それぞれで発生する火山現象ごとに影響範囲を記載

避難場所	想定火口	大きな噴石	降灰	火砕流	火砕サージ(爆風)	溶岩流	土石流	火山泥流
	西側 東側 	西側 東側 	西側 東側 	東側 	東側 	東側 	西側 東側 	東側 
	予想される火口位置	大きな噴石が飛入できる危険性のある範囲	火山灰が降り積もる厚さ(cm) 風向きによる例	火砕流が到達する危険性のある範囲	火砕サージが到達する危険性のある範囲	溶岩流が流れ下る危険性のある範囲	土石流が流れ下る危険性の高い沢と増幅する範囲	噴火時に火砕流が発生した場合、崖が崩れて火山泥流が流れ下る危険性のある範囲

◎ 風向・地形条件等で、到達する方向は変わります。図に示したすべての範囲に到達するわけではありません。



# 現在の岩手山

10月2日15時以降、噴火警戒レベル2が継続中  
7か所の登山道入口等で立入規制中

※ 写真は山体膨張が確認された西岩手山大地獄谷



# 岩手山の噴火警戒レベル

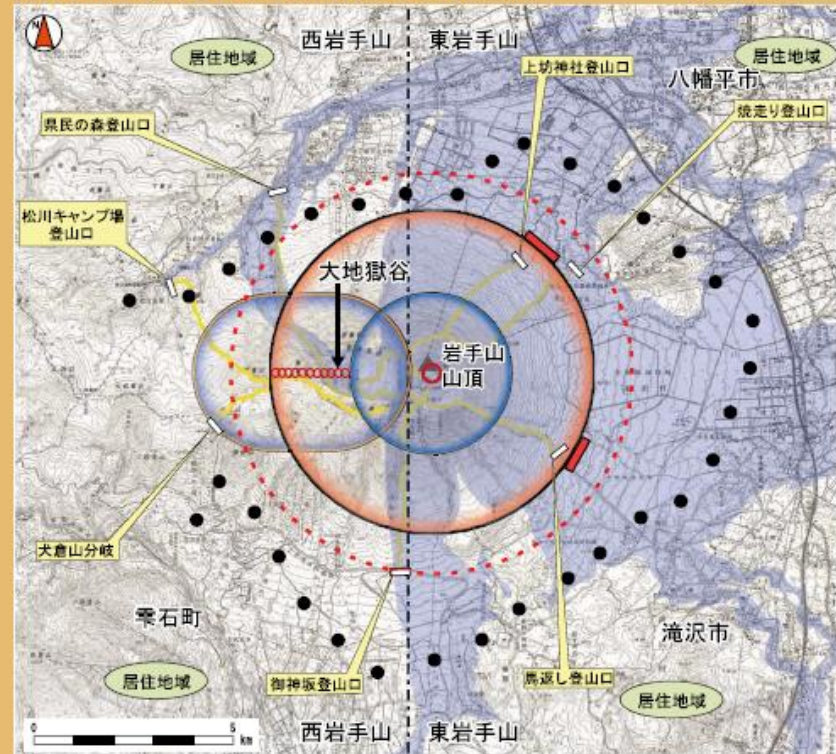
— 火山災害から身を守るために —

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「高齢者等避難」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」）。
- 岩手山の噴火警戒レベルは、噴火警報等でお伝えします。



岩手山を西側から望む

## ■岩手山 噴火警戒レベルに対応した規制範囲



### 岩手山の火山活動について

岩手山では、1686年に山頂火口から、1732年に山腹火口（焼走り燗岩流）から、1919年に大地獄谷で噴火が起きています。また、1998年3月以降地殻活動が活発になり、1999年からは西岩手山の大地獄谷や黒倉山から姥倉山にかけて噴気活動が活発になりました。

現在（平成31年3月）は、地殻活動、噴気活動も静穏な状況となっています。

- 凡例
- 居住地域の境界
  - 規制登山道
  - 登山口等の入山規制箇所
  - 想定火口
  - レベル2の影響範囲（東岩手山）
  - レベル3の影響範囲（東岩手山）
  - レベル2、3の影響範囲（西岩手山）
  - 火砕流・火砕サージの影響範囲（レベル4、5）
  - 融雪型火山泥流の影響範囲（レベル4、5）
  - レベル3における通行規制箇所

この図は、国土地理院発行5万分の1地形図「岩手」を使用して作成しています。

■この図は岩手山の噴火警戒レベルに対応した規制として、レベル2、3における主な規制範囲を示しています。

■岩手山の噴火警戒レベルは、地元自治体等と調整して作成しました。各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については、盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町にお問い合わせください。



## 岩手山の噴火警戒レベル

種別	名称	対象範囲	レベル(レベル)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報（居住地域）又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5（避難）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●融雪型火山泥流または火砕流・火砕サージが居住地域まで到達、あるいは切迫している。 <b>過去事例</b> 1686年の噴火：東岩手山山腹で噴火、融雪型火山泥流が川沿いに北上川まで流下、滝沢市一本木地区砂込川沿いの居住地域で一部家屋の流出火砕流（火砕サージ）は火口から山麓（約4km）まで流下 噴石は火口から山麓（約4km）まで飛散
			4（高齢者等避難）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での高齢者等の要配慮者及び「特別に被害が予想される区域（施設）」の避難、住民の避難の準備等が必要。	●融雪型火山泥流または火砕流・火砕サージが居住地域まで到達する可能性がある。 <b>過去事例</b> 1732年の噴火：東岩手山山腹で噴火、北東山腹に溶岩流出（焼走り燗岩流） 激しい地震活動、有感地震の多発、住民避難
警報	噴火警報（火口周辺）又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3（入山規制）	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火口から居住地域近くまでの範囲への立入規制等。 状況に応じて高齢者等の要配慮者及び「特別に被害が予想される区域（施設）」の避難の準備等が必要。 住民は通常の生活。	●東岩手山の火口から概ね4km以内及び西岩手山の火口から概ね2km以内に影響が及ぶ噴火が発生、または予想される。 <b>過去事例</b> 1998年の活動：4月29日、短時間に多数の地震と規模の大きい地震が発生し、地殻変動に急激な変化
			2（火口周辺規制）	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火口周辺への立入規制等。（登山道は入口から立入規制） 住民は通常の生活。	●東岩手山及び西岩手山の火口から概ね2km以内に影響が及ぶ噴火が発生、または予想される。 <b>過去事例</b> 1919年の噴火：西岩手山（大地獄谷）で噴火、噴石は脇の登山道に飛散 1998年の活動：3月17日、火山性地震が増加し地殻変動開始
予報	噴火予報	火口内等	1（活火山であることに留意）	火山活動は静穏。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火口内で少量の噴気や火山ガス等が発生。

※火口は、東岩手山山頂または西岩手山の大地獄谷から姥倉山付近までの稜線に想定される。  
※「特別に被害が予想される区域（施設）」とは、融雪型火山泥流が流下する危険のある「滝沢市一本木地区砂込川沿いの区域」及び「岩手山焼走り国際交流村」を指す。

■各レベルにおける具体的な規制範囲等については各市町の地域防災計画等で定められています。  
■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧いただけます。  
<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>



月 日	仙台区気象台発表内容、対応	県の対応	関係機関の対応
8 5	解説情報（無印）第1号発表 ・8月2日から5日にかけて、3回の火山性微動が確認された ・噴火警戒レベルは1を継続	気象台発表内容について関係機関等へ情報提供	
21	解説情報（臨時）第2号発表 ・山体膨張を示す地殻変動が観測された ・今後、火山活動が高まった場合噴火警戒レベルを1から2に引き上げる可能性あり	①気象台発表内容について関係機関等へ情報提供 ②第71回岩手県の火山活動に関する検討会開催、有識者等から意見聴取 ・協議会幹事会を開催し、関係機関で対応について協議する ・レベル2引き上げ時の立入規制実施の準備を関係機関に促す ・水蒸気噴火の可能性があるため、大地獄谷に立ち入らないよう呼びかける ・火山観測の充実と火山活動の情報提供について気象庁に要望	
22	現地調査実施	岩手山火山防災協議会幹事会を開催、関係機関で今後の対応等について協議 ・立入規制は行わないが、水蒸気噴火の可能性のある大地獄谷周辺に立ち入らないよう周知 ・レベル2引き上げ時には直ちに火口周辺への立入規制を行うことから、必要な準備を進めること	大地獄谷周辺に立ち入らないよう周知 （関係機関HPへの関係市町による登山道入口への立て看板設置）
23	解説情報（臨時）第3号発表 ・22日実施の現地調査では大地獄谷付近の状態に特段の変化なし ・その他の情報についても第2号の内容から特段の変更なし（地殻変動継続） ・今後、毎週金曜日に解説情報により岩手山の活動の推移を発表する予定	①知事（岩手山火山防災協議会会長）コメント発表、協議会での決定事項を県民に周知 ②気象台発表内容について関係機関へ情報提供	協議会で決定した対応を継続
11	①現地調査実施 ②岩手山に新たに観測機器2機設置したことを発表	第72回岩手県の火山活動に関する検討会開催 ・岩手山は地殻変動が続いており、引き続き注意が必要 ・月1回程度検討会を開催、岩手山の火山活動の状況等について定期的に評価・検討等を実施	
10 2	解説情報第9号発表 ・噴火警戒レベルを1から2へ引き上げ ・大地獄谷付近のごく浅いところの膨張を示す地殻変動が観測された ・西岩手山の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性あり	①災害特別警戒本部設置 ②協議会の決定に基づき、全登山道入り口からの立入規制を行うよう関係市町に指示 ⑤岩手県警察が登山届等から登山者の状況を確認（4日に全員の下山を確認） ④知事コメント発表、入山規制及び住民の生活に影響はないことを県民に周知 ⑤HP、SNS等により入山規制について周知	①各市町が登山道の立入規制実施 ②各市町が緊急速報メールにより登山者に周知 ④HP、SNSなどにより入山規制について周知
23		第73回岩手県の火山活動に関する検討会開催 ・岩手山は、山体膨張を示す地殻変動が継続しており、引き続き注意が必要。 ・岩手山は過去約7,000年の間に9回の水蒸気噴火発生（降灰の厚さが最大となったのは約3,200年前のもの）。火口北側には、沢に沿って流れた火山泥流由来の堆積物あり。	
25		岩手山火山防災協議会幹事会を開催、噴火警戒レベル3引き上げ時等における関係機関の対応等について確認	

# 8月21日 仙台管区気象台 「火山の状況に関する解説情報（臨時）」発表

火山の状況に関する解説情報（臨時）

令和6年8月21日11時00分 仙台管区気象台発表

＜噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）が継続＞

岩手山では、山体膨張を示す地殻変動が観測されています。今後、火山性地震の増加や火山性微動の発生など火山活動がさらに高まった場合、現在の噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き上げる可能性があります。今後の火山活動の推移に注意してください。

## 火山活動の状況

岩手山周辺の傾斜計やひずみ計、GNSS連続観測では、2024年2月頃から山体膨張を示す地殻変動が観測されており、8月までの変動量は、岩手山の火山活動が活発化した1998年の活動初期に観測された変動量と同規模に達しています。

黒倉山付近では、2024年5月頃から計数基準に満たない微小な火山性地震が増加しており、7月下旬以降さらに増加しています。

これらのことから、岩手山では火山活動が高まっている可能性があります。今後の火山活動の推移に注意してください。

## 防災上の警戒事項等

黒倉山や大地獄谷付近では、噴気や火山ガスの噴出等が見られます。ヘルメットの携行や立ち入り規制等地元自治体の指示に従ってください。



8月21日 仙台管区気象台

「火山の状況に関する解説情報（臨時）」発表

## 解説情報発表後の本県の動き

8月21日

第71回岩手県の火山活動に関する検討会を開催、有識者等から意見聴取。

8月22日

岩手山火山防災協議会幹事会を開催、各関係機関の対応を確認

- ▶ 当面、立入規制は行わないものの、水蒸気噴火の可能性のある大地獄谷周辺には立ち入らないよう呼びかけること。
- ▶ 噴火警戒レベルが2になれば、直ちに火口周辺への立入規制を行う必要があることから、**予め必要な準備を進めておくこと。**

# 10月2日 仙台管区気象台

## 「火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）」発表

噴火警報・予報：火山名 岩手山 噴火警報（火口周辺）	
2024年10月02日15時00分 仙台管区気象台 発表	
キーワード	火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）
見出し	<p>&lt;岩手山に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表&gt; 西岩手山の想定火口から概ね2 kmの範囲では大きな噴石に警戒してください。</p> <p>&lt;噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げ&gt;</p>
火山活動の状況及び予報警報事項	<p>国土地理院によると、9月26日に観測された「だいち2号」のSAR干渉解析結果では、大地獄谷周辺に、衛星に近づく変動が見られます。この変動は、大地獄谷付近のごく浅いところの膨張を示していると考えられます。</p> <p>今後、西岩手山の想定火口から概ね2 kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので警戒してください。</p>
対象市町村等	以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。
	岩手県   八幡平市、雫石町
防災上の警戒事項等	<p>西岩手山の想定火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。</p> <p>地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。</p> <p>また、噴火時には火口の風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。</p>



10月2日 仙台管区気象台

## 「火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）」発表

レベル引き上げを受け、関係機関において直ちに立入規制等の防災対策を実施。

### (1) 県の対応

ア 災害特別警戒本部を設置、入山者等の安否情報を収集

※ 入山者の有無や市町の対応を確認するため、噴火警戒レベル3相当の対応を実施

イ HP、SNS等により「入山規制」及び「日常生活や規制範囲外の観光に影響はない」ことを周知

ウ 岩手県警察及び防災航空隊によるパトロールを実施

### (2) 関係市町の対応

ア 八幡平市、滝沢市及び雫石町の各登山口等で入山を規制

イ 緊急速報メールにより、登山者に周知

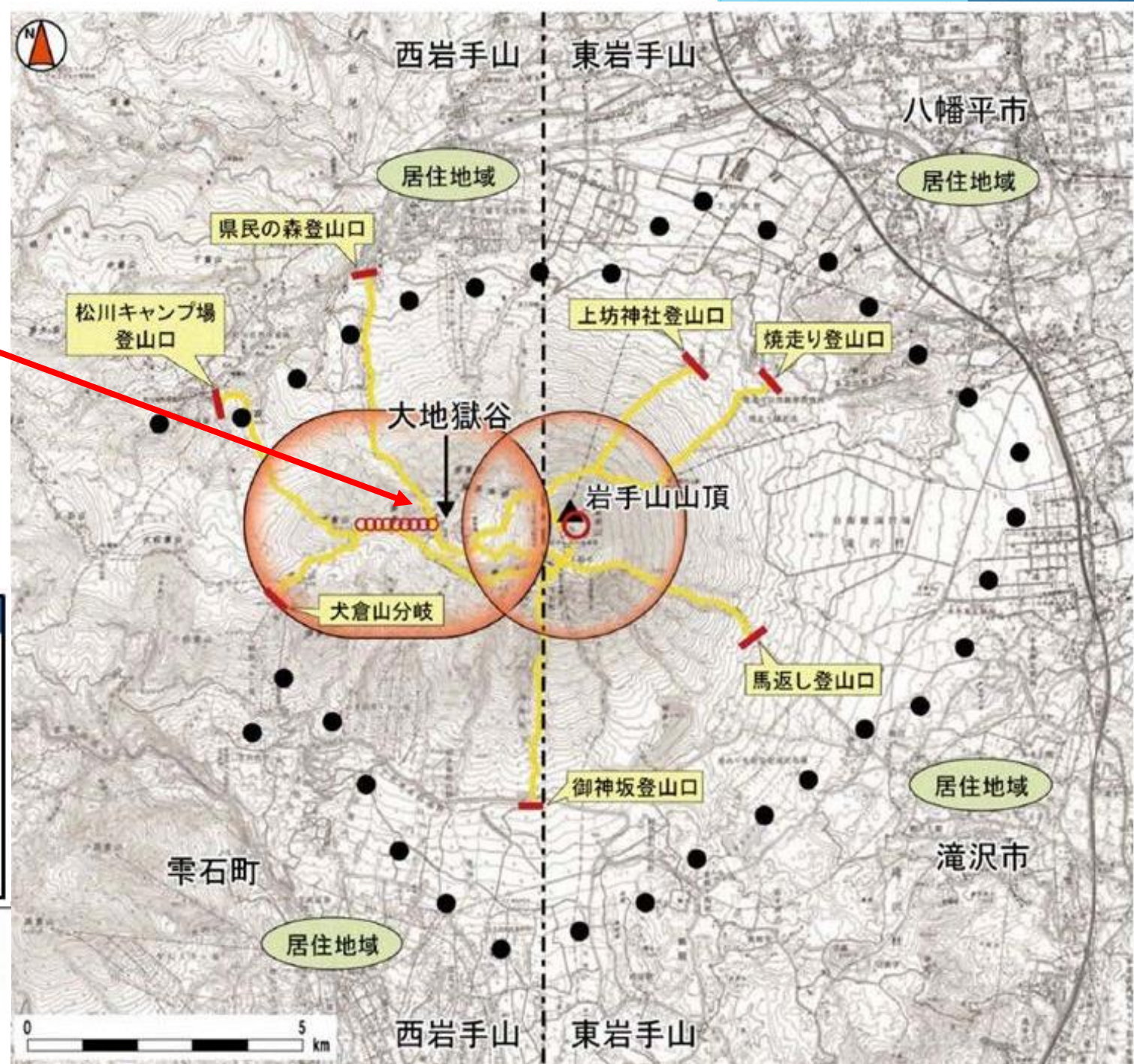
ウ HP、SNS等により、「入山規制」及び「日常生活や規制範囲外の観光に影響はない」ことを周知

# 噴火警戒レベル2における立入規制範囲

山体膨張が確認された西岩手山（大地獄谷周辺）の想定火口

凡例	
●	居住地域の境界
■	規制登山道
■	登山口等の入山規制箇所
○	想定火口

大きな噴石: 東岩手山及び西岩手山の想定火口から概ね2km





# 立入規制の様子



八幡平市 七滝 (県民の森)



八幡平市 松川



八幡平市 焼走り



八幡平市 上坊



滝沢市 馬返し



雫石町 御神坂



雫石町 網張



# これからの対応

- ・ 噴火警戒レベルの引き上げや、西岩手山で噴火が発生した場合の関係機関の防災対応について確認し、準備を進めているところ。  
※ 10月25日に岩手山火山防災協議会幹事会を開催、上記の認識を関係機関で共有。
- ・ 月に1回程度、岩手県の火山活動に関する検討会を開催、岩手山の火山活動の評価・検討を実施。
- ・ 風評被害対策のため、各種広報媒体による周知を実施。





ご清聴ありがとうございました